

昭和19年1月1日元旦（土）

快晴。此朝七時、森田さん荒巻さん汽車にて、前者は穂波の父母の許へ、後者は小竹へ。而して前田さんは八幡へ、岩尾さんは別府へ行かる。余は十一時半より医者かかり1, 50、此朝餅頂く。半煮の俵、搗いたらしく強飯を食ふが如し。個人主義の彼等業者は、済度すべからざるものか。八重子、三児（秀樹を除く）連れうどん七把、五合餅を持来る。不味ながら今朝残りの餅を馳走す。蜜柑二つ、人参一把持たせてやる。ぜんざいするから三日に來いと遺して販る。

昭和19年1月2日（日）

曇り。朝福岡へ牛肉百匁、うどん三把半小包にて送る。医者1, 00。坊や午後一時、大貞公園に行く。事務費改正六円弱増額、前田さん以下増給のこととす。四時の汽車にて坊販る。陽照らず。加之、車内混雑。持って行った薯（いも）弁も食べる違（いとま）なく、神社を遠く眺めて販来せりと。魚は水乾き底部に沈み、餌を与ふるも食せざる由。寒い時には餌を食わぬが通性なり。夕食遅くなる。朝雑煮、八重子持参の五合餅平らぐ。

昭和19年1月3日（月）

元始祭。報告物発送す。十一時半医かかり一円、販来。北浦町に坊連れ行かる。快晴、日向は暖かし。酒二合、残りの章魚（たこ）持行かる。北浦町は陽当たりよく、風揚げる態を見て大分遊びし由。ぜんざい食べて二時半頃辞去。途中半途徒歩、転倒泣いて負われて来る。四時を過ぐ。子供に旧態勢の晴着、女も兎（と）もすれば島田髻（もとどり）の娘を見る。此日前田さん八幡行き。

四日休暇を申出づ。岩尾さんは別府行き中止。森田さん
夜飯来。

昭和19年1月4日（火）

窓口、為替も郵便も多忙を極む。三日東郷局長臨局。
嘗ての白酒代5, 10返戻す。庄会長さん寄附の礼に来ら
る。十一時半医かかり一円。夕食雑炊。曇天。夜雨、
暖かし。八時頃みわさん坊と寢床。余湯煖房造り、七輪
の火を始末して九時過ぎ寝る。貯金受け一万円を突破、
初めて見たる大額なり。為替岩尾さん、郵便森田。

昭和19年1月5日（水）

新年宴会。曇り。午前中陽照り日向は暖かに、子供等風
揚げ独楽廻しに躍り廻る。みわさん風邪、坊や咳多く咽
頭部痛しと訴ふ。午前十時半、朝食薯蒸して貰ふ。医一
円、飯りて就寝。坊も三時頃まで遊び、余の許に二度抱
かれ、遂にみわさんに抱かれ寝る。岩尾さん一類始末の
為帰局。一時間風寒く、且つ強し。

昭和19年1月6日（木）

荒巻さん正午頃臨局。飯宅せず午後六時まで勤む。飯る
さドロップらしき飴一袋呉る。余、次いで事務室に来て見
れば、腰掛けに火移り今や火事に至らんとす。大慌てに
火を消す。今少し浚々（えんえん）たれば危うかりし。
午後二時半頃医かかり行く、80銭となる。飯りに請求の
切手類受取り来る。後頭部に更に新たに腫れ物生発す。

昭和19年1月7日（金）

岩尾さん昨日早引き、女兒二名を連れ別府行き。此日十

時頃出局。鰯（ぶり）四半味頂き、夕食は煮付けとして頂く。此日曇り、風寒し。みわさん早く休む。余医に行くを臆がり、電話にて一日休止を訴ふ。恰も医外診不在。其の俣余行かず。新たに発生の後頭部の腫れ物は、頭髮に蔽われて発見に至らず、打捨て措く。

昭和19年1月8日（土）

晴れたり曇ったり。みわさん風邪一向軽快せず。朝六時から九時まで訓練警報、もん平組出動す。みわさんも出動、早退切手請求。二時半医かかり、此日より隔日となる。販るさ切手受取る。岩尾さん為替済まして別府行き。夜、常会に坊と共に出席。九時過ぎ販宅。月番を定め集会まで廻り持ちとなる。坊や常会にて大根漬けを食べ、茶を飲む。

昭和19年1月9日（日）

曇り、雨模様。税務署と逓信局とより調査物下命。電燈を点火、執務。午前中坊やみわさん外出。みわさん嘗て坊やの腫れ物薬として、家伝の妙薬送付越せし儘、放置しありたるを取出し来らる。是あるかなと欣び、更に使用法を再吟味す。酒と共に吞下す。二服在裡、而して一度に二包みを嚥下す。酒は神様より頂きしものも多少ありて、二合位はあり。内一合強、温め飲む。其の儘眠る。後頭部の腫れ物痛みを覚えず眠る。味飯夕食に認む。

昭和19年1月10日（月）

朝残り飯、鰯（ぶり）入りあるを以て毒絶ちぬ。別に粥炊き貰ふ。夕食うどん。医かかり取止む、然れども膝頭は未だ全く癒えず。切手請求せず、函場よりも請求なし。

晴れたり曇ったりの天候。八重子来、蜜柑求めて折半。
昼飯、味飯の残りを馳走す、秀樹も食ふ。

昭和19年1月11日（火）

初めの間は快晴、後多少の雲出でたるも概して晴れ。巖朝来たり。二郎の分も申告を要する如く、之を兵庫県に廻送す。朝甘藷蒸す。巖販りて十時朝食す。林より強飯子供の誕生日とて貰ひ、戸棚に据え置く。坊や後刻持来たり、事務室にて森田さんに食べさして貰ふ。みわさん来たり大変立腹、余を責む。夕食強飯、余は未だ食べられぬを思ひ持越す。夕食後、坊森田さんに連れられ湯に行く。帰途、小島の串刺しを森田さんに買わせて食べる。此の夜もなかなか寝ねず。みわさん夜なべ、綻びを縫はる。

昭和19年1月12日（水）

早く起き、羅漢寺に局長会代理として出席さる。殿町は心得の島沢旅館主人出席。定額料金奨励に付き、逓信局奨励係より話あり。未完成の向きは完成を期し、完成の向きは二割追加を目標とすることとなる。酒肴及び飯が出て五時頃販宅。坊に笛を求め来らる。坊吹きつづけ一時間にして音を出さず。朝のうち晴れ、次第に曇り天気悪くなる。夕食七時を過ぐ。坊割合に大人らし。

昭和19年1月13日（木）

午後より小倉教会へ坊連れ行かる。当地より参加したる信者稀有らし。五時過ぎ販り、夕食。従って遅る。朝の間晴れ、次第に曇る。班長さんより南瓜求め来らる。みわさんの風邪、一向に癒（い）えず。

昭和19年1月14日（金）

切手類請求、葉書百枚残となる、八千枚請求。みわさん坊連れ葉書の加勢に来られ、二千枚持来らる。此日概ね曇り。余の腫れ物快癒近し。然るに後頭部襟元に、曩（さき）に発生の跡に再び発生の兆候あり。曇り、時々晴れ。

昭和19年1月15日（土）

神様の例祭、午後より坊や連れ行かる。販りての話に、坊や暴れて、先生の咄し一向聞き取れぬとこぼさる。十一時頃二郎来たり、事務室に余の左側にて挨拶す。巖来ると合点し碌に挨拶もせざりしに、二郎と分かり驚く。社長と来たり、今一汽車待たせ置けり。弁当作って呉れとて、三人前森田さんにお握り作らせ、有合わせの佃煮と大根漬けにてやる。二郎三十円余に呉る。年末、余の小遣いと云ふ処を、序でに持参したるらし。貰って置く。

昭和19年1月16日（日）

珍しく快晴。福岡より坊やの紋平贈りて来る。早速着せ換ふ。夕食後森田さんと湯に行く。頃日みわさん不快の為、森田さん連れて行って下さる。朝ウドン頂く。薯は昨日にて千秋楽となる。

昭和19年1月17日（月）

曇り。岩尾さん窓口。午後六時頃より竹屋にて、大川薬店の長女、婿養子を娶り此日披露式。隣組一班全部招待、みわさん森田さんで行かる。坊や余守りす。福岡より贈与の紋平を着用、軽快なる儘大いに活動せしも、小便を漏らし、小便するも満足に外に額を出さぬ為、紋平

は小便に濡れ、痒味を感じ泣き出す。和服と着せ換ふ。此時風邪に冒されたりと覚し。みわさん九時頃飯来。残り物持来らる。十時寢床。税務署報告の切手印紙類の計算に着手。

昭和19年1月18日（火）

寒気強し、七輪に火を起こし茶を嚙む。坊やとみわさん七時過ぎて寝て居らる。川原田朝日氏に連れられ、大川の婿君挨拶に来らる。此の夜坊や発熱。ヒマシ油の福岡より持来たりしもの小瓶あり。之を強いて嚙下せしむ。

昭和19年1月19日（水）

此の朝より街路掃除初む。手套及び襟巻きを須（しゅ）す。山田医は掃除を自らすることに対する根本思想を、余と異にし居る。乃ち掃除を手段とし、他の者が後継者となる夫れまで実行し、後継者が出来れば自分は罷めると云ふにあり。そんなものでない。感奮して代わって呉れる人が出来たにせよ、己れの持ち場は己れが継続する。仕事即ち生活に帰一せしむることが肝要である。故母堂の命日、赤飯炊いて午飯を局員に馳走す。油揚げ、牛蒡、人参等煮附けす。

昭和19年1月20日（木）

快晴。此朝より大釜に湯沸き、足を洗ふに便なり。練炭を遅く焚く、朝まで保たせる為。切手類請求受取りに余坊を負ふ、みわさんも来らる。葉書在庫少なく補充困難の由にて、制限せらるる如し。坊、咳頻繁。みわさんと競争の態。インキ小瓶を求むれば、空瓶なしには遣れぬと断わらる。隣保班配給鮮魚、火箸の様な細長き小魚出

てあり。日出町に配給、他より遅れ勝ちの嫌いあり。

昭和19年1月21日（金）

午前中晴れ勝ち、後より曇り。みわさんラジオ調整の為外出、午後四時になるも見えず。坊や余の行火（あなか）に暖まり仕事出来ず、小母やと慕ふ。四時より坊を抱きてラジオ屋に行く。未だ見えぬと主人公謂ふ。不得已、販る。五時頃販局。定額貯金勧誘に努めたりと覚しきも、得る処なかりし如し。一切沈黙す。此の夜割合に暖かなり。夜婦人会、余坊を寝かす。

昭和19年1月22日（土）

朝降雨。切手資金納付。朝食を済まして出発、此の時には降り歇む。十一時半電話、切手請取りに来たれと。急ぎ出発。此の時、降り初む。葉書六千請求、四千に削減せらる。腫れ物、顔左下顎部に移行す。後頭部は漸次癒り初む。此の朝上本氏舎弟の妻、男子分娩。産婆が間に合わぬ位、頗る軽かったと云ふ。

昭和19年1月23日（日）

朝、街路雨に濡れ掃除省く。午後坊や神様に行く。紋平穿き行き、賞讃の的となると。後快晴。

昭和19年1月24日（月）

切手請求。午前八重子来る、智子、義樹を連る。堅パン遣る。和傘返戻す、昨和傘を?????出したるも、行違いに持参せり。一時八重子と一緒に出掛け、石炭事務所前にて分かる。みわさん二階に上がり葉書持来らる、四千枚。坊や余と一緒に帰ることにして、十間程帰りかけ、

急に小母ちゃんと叫び出し跡を追ふ。魚の辻を通りて帰る。快晴。此の朝ほうじ茶二升求む。五十銭、併し一向お旨しくない。

昭和19年1月25日（火）

曇り、後降雨。昨八重子なつめ金柑、風邪の妙薬として持参。これを二合を一合に煎じ詰め、服用せば全治すと。此夜も煎じて飲まる、咳一向止まらず。坊やは次第に快方に赴く。昨魚の辻よりキビナゴ35銭百匁を、50銭分求め、昨夜より頂く。其の前日も百匁求め来らる。其の際は三十銭なりしと云ふ。

昭和19年1月26日（水）

坊、小便で床を汚す。晴天、乾かす。教会にて餅七合搗き貰ふ。教会の奥様持参し下さる。味御飯も送らる。母堂の百日祭、旧正月。切手受取りに坊を連れ、単独にて行く。三千枚呉る。味飯は局員に振舞ふ。

昭和19年1月27日（木）

曇り。新しき足袋穿く。古き分は故母堂の丹精にて今日まで保ちたり。併し左の拇指穴を顕はし、底部も破れたり。廃棄も已むを得ざるに出づ。税務署報告、全部発送せり。為替式紙類交付を受く。

昭和19年1月28日（金）

快晴。夜半電燈消火。坊や泣く。余を悪態に罵（ののし）る。大いに注意を与ふ。小倉参拝の是非に及ぶ。みわさんも咳毫も癒せぬも、心の卑しきに基因するを知らざるなり。余の腫れ物も余の心構えの不良に漸く思い至り、

改善に努めつつある所以を懺悔す。切手受取りに坊を連れ行く。此の頃曇天。葉書三千。竹折氏より四百注文あり。夜ウドン。夕方坊、紋平に小用を洩らし濡れ頻繁に行く。森田さんに湯に行く。七時半飯り、飯食べ八時寝る。此の朝東京、大阪に小包梱包発送す。蒲銚十五円求め（30）、前者12、後者5、外に二郎。道子は31日朝発送す。

昭和19年1月29日（土）

山本函場より印紙千枚請求あり。中津阿部さんの承認を求め、五銭三千請求す。十一時半過ぐ。請求届けと交換に現物を交付さる。坊や連れ行く。風寒し。みわさん定額貯金奨励に、病軀を擁して車輪の大活動を継続さる。夕飯、七時八時を過ぐる事屢々なり。

昭和19年1月30日（日）

曇り。事務室掃除半途、北野又右衛門氏来。餅二重、きんこうじ五つ、アラレ五合程持参。蒲銚三、なまこ（本朝求められたもの）等返礼として遣る。恰も此の朝、餅焼きして食ふこと、小豆煮て居る。北野氏到来の分をも加えて、砂糖餅して食ふ。一時頃までに、朝とも中食とも付かぬ食事を摂る。

昭和19年1月31日（月）

みわさんの名前で千円（切手代金中より百五十四円交付す）定額す。岩尾さん八屋行き。千円受取り、正午過ぎ帰局。千円組換ふ等、遂に六千円を下旬分丈けにて突破。其の為一般貯金も激増、何れも目標額を突破するの盛況となる。前日午後九時近く、床町内会長宅に班長会に出

席。十時半帰る。みわさん神様に詣じ同時刻帰宅。本朝
道子、二郎へ小包出す。道子へはアラレ少々入れたり。